

第2回加賀市ビジョン策定委員会議事録

1 開会

2-（1）第1回策定委員会の振り返り

前回の策定委員会の議事録を確認し、その内容について承認を得た。

2-（2）加賀市のSWOT分析について

加賀市のSWOT分析について、資料を基に説明した。（資料2）

【岡田委員】

- 若者目線だと、加賀市の強みとして、祭りの文化を取り上げてほしい。

【辻委員】

- 北陸新幹線の延伸を外部環境のプラス要因に挙げているが、乗り継ぎが必要になった影響で、関西方面からの誘客は減っているため、脅威にもなると思う。また、新幹線延伸後、航空券が安くなって、飛行機の需要が戻りつつあるが、小松空港から加賀までのアクセスが不便なものも脅威になると思う。テレビ放送で、石川県はおいしいものを食べるのできる日帰り旅行先として第一位と紹介されていた。加賀は金沢からのアクセスが良いのか悪いのか、これは脅威になるのか強みになるのかというところも考えていただきたい。
- 医療センターの機能に課題があることをマイナス要因としてとらえるのか、新しい大きな病院があることをプラス要因として捉えるのかを決めたほうが良いのでは。

【林委員】

- コミュニティの孤立が問題になっているので、横のつながりを強化していきたい。

【田中委員】

- 人口減少、少子高齢化、担い手不足、空き家の増加、これは加賀市だけの問題ではなく、全国的な問題であり、加賀市だけで解決するのは非常に難しい。国と連携しながら解決していかなければならない問題だと思う。多極分散型都市構造によるサービス維持の課題の一つの解決方法としては、利便性の高い道路でつなぐことだと思うが、財政的な理由で厳しい。公共施設の老朽化と財政負担については、徐々に施設の更新や廃止を行っていけばいい。ビジョンにはこれらの問題は掲げるべきだとは思いますが、なかなか難しいとも思う。

【山口委員】

- 人口減少や少子高齢化による担い手不足を単なる弱みとして捉えるのではなく、分散型のまちだからこそ、各地域の特色ある自治や市民力を高める機会と捉えるべきである。そのため、市民が活動しやすい環境を整え、地域の担い手や活動を後押しする行政の役割と具体的な手立てについて議論する必要がある。

【加藤委員】

- 加賀市に就職したい企業が少ないことが原因で、県外の大学に進学した子が卒業後に帰ってこないという話を聞いている。魅力ある企業を誘致することで、若者が加賀市に戻りやすい環境をつくることができれば良いと思う。また、将来、市内で働くことを条件に、加賀市へ戻る若者の学びや生活を支援する基金などの仕組みがあればよいと思う。

【増野委員】

- 弱みについて、把握してカバーしていく必要があるということが理解できた。

【山田委員】

- 若い世代が、定着、移住するための労働支援や学習の機会を設けてほしい。山中漆器については、素晴らしい技術を持つ職人でも販促がうまくいかず、安定して働けることが難しいという問題もあるので、支援できたら良いと思う。また、北陸新幹線延伸効果によ

る交流人口の拡大について、関西中京方面からのお客様が激減していることもあり、誘客に苦戦しているのを、改善できるような手当をしてもらえたらありがたい。インバウンドによる高付加価値観光需要の拡大については、加賀温泉郷の魅力を充実できるような内容で、他の自治体と差別化した観光戦略をお願いしたい。

【嶽野委員】

- プラス要因として、市内各地で育まれた特色豊かな地域資源を挙げているが、市外の人に対して発信不足だと思う。デジタル田園健康特区の指定については、期待される効果などを市内の人があまり知らないと思うので、まず市民に対して丁寧に説明すべき。空き家の増加については、ハウスメーカーや不動産業者などと連携して街を活性化していくという意気込みで取り組んでいってはどうか。

【田向委員】

- 歴史文化的な側面を強みに入れるべきだと思う。強みに大聖寺十万石城下町を入れたらどうか。マイナス要因の多極分散型都市構造について、大聖寺を軸として考えれば、他拠点との結びつきもしやすいと思う。そこから加賀市ブランドの出発点にできれば強いと思う。

【道田委員】

- 人口減少を前提にまちづくりをしていかなければならない。生活がしやすいまちだと、今加賀市に住んでいる人の定住が期待できるため、生活の質の向上を最重点として目指していくべきだと思う。

【高山委員】

- 今回の SWOT 分析は、ビジョンの目標を達成するために何が必要かを考える際に、加賀市の強みや弱み、チャンスや脅威を、どう活かして、どう抑えるかにつながると思う。例えば、今と昔で加賀温泉郷のにぎわいの質が違い、インバウンドにしても高級旅館に宿泊する方がいれば、ゲストハウスに宿泊する方もいて、差別化が進んでいる。加賀市がどこを目指すのかを、これから戦略を考える上では非常に重要だと思う。

【下口委員】

- 資料に記載されている弱みは加賀市だけの問題ではなく、全国的な問題だと思うので、弱みをカバーしていくことよりも、加賀市の地域資源を守って次の世代に受け継いでいくことが大事だと思う。プラス要因の深掘りに力を入れるべきだと思う。

【委員長】

- 今回いただいた意見の中で、SWOT 分析に追加するようなものもあれば、今後のビジョンを策定していく中で、取り入れたほうが良いものもあるかと思うので、事務局の方で整理してください。

2-(3) 加賀市ビジョンの骨子（案）について

加賀市ビジョンの骨子（案）について説明した。（資料3・資料4・資料5）

【加藤委員】

- ビジョンにて示しているウェルビーイングの考え方が、「加賀市が持つ自然、歴史、文化、温泉などの魅力を紡いできたことを子どもたちに学んでもらい、学校の部活動という垣根を越えて学びや挑戦の機会とすることで、地域一体となって子どもたちに楽しい時間を過ごしてほしい」という、放課後部活動の在り方に対する考え方とマッチしているので、ビジョンの重点テーマとしてぜひ取り入れてほしい。

事務局回答：部活動の在り方については、加賀市教育ビジョンの推進という考えの中に組み込まれていると考えている。また、地域の魅力を次世代に引き継いでいくという部分については、重点テーマのうち「地域の資源の価値を高めます」の分野とうまくかけ合わせるなどの、施策の方向性としてビジョンにまとめていきたい。

【岡田委員】

- ビジョンを達成するためにどのような人材を育成するのかということが大事。青年会議所は「まちづくり、人づくりを柱とした明るい豊かな社会をつくる」という理念のもとで、加賀市を良くしたいと思ってくれるような人が一人でも増やせるよう、様々な事業を行ってきた。また、行政が作るビジョンと聞くと、行政のみで全て進めていくというイメージがあるから、市民も参画してともに進めるというものでないと、ビジョンが市民に浸透しないのではないかと思う。

【委員長】

- 人材育成やリスクリングは、重点テーマのうちどの分野に入ってくるのか。

事務局回答：資料5の「①地域の活力を育みます」のNo.2にて触れている。市としても、将来も加賀市に住み続けたいと思えるようなまちづくり・人材育成を行っていきたいと思っている。また、青年会議所の理念は、資料5の「③地域資源の価値を高めます」のNo.1で述べているシビックプライドとも繋がると考えており、このような地域への愛着や誇りを持ち、地域を良くしていこうという考えを、行政的だという視点に注意しながら、醸成していきたいと考えている。

【田中委員】

- 資料5の「④暮らしの安心安全を支えます」のNo.2は、「医療・介護・福祉をつなぎ、支えあえるまちを実現する」とのことだが、どのようにして各町との協力体制を作っていく、このテーマをビジョンに落とし込んでいきたいと考えているのか。

事務局回答：「まち」という言葉は、細かい各町のことでなく地域全体の事を指している。前回の委員会でも、具体的な各地域の課題を分析して施策を実施すべきというご意見をいただいていたので、この点を踏まえたうえでの方向性として、ビジョンに落とし込みたいと考えている。

【山口委員】

- 現在精査しているビジョンの重点テーマとその概要のイメージを、今後の策定委員会でどの程度落とし込み、どのように決定していくのかが分からないので教えてほしい。

【増野委員】

- ビジョンの重点テーマの概要で気になる部分があれば、この場で指摘していかなければいけないのか、その内容をどこでどうやって決定していくのかが分からない。また、ビジョンの理念体系図の絵も決定していないのであれば、これに対する意見もこの場で発言すべきなのかも分からないので、教えてほしい。

事務局回答：策定委員会は全5回を予定している。今回は、資料3の理念体系図とその内容については、こういう思いで進めさせてもらいたいということで、骨子案として提示している。また、資料5の重点テーマはビジョンに落とし込みたいと考えており、そのテーマの考え方については概要として記載している。その内容で気になる部分や文言があればぜひご意見をいただきたい。現在は重点テーマの候補として提示しているが、次回の委員会では素案の中に落とし込んだ形で、今回議論を行った点を踏まえた重点テーマの案を提示する予定。その後、第4回の委員会でビジョンとして形になったものを示したのち、委員会での意見やパブリックコメント、タウンミーティングを経て、最終的なビジョンの案を答申としてまとめていただくことになる。この過程で出た様々な意見や、ビジョン内で伝えきれない部分についての意見の盛り込み方などの整理が、今後必要となってくる。その後、いただいた答申を受け、市長として最終的な決定を行う。

2-（4）加賀市ビジョンのKGI・KPI 設定について

加賀市ビジョンのKGI・KPI の設定について説明した。（参考資料）

【田向委員】

- 提示されたものを見ると、総花的なビジョンに見える。ビジョンをそういうつくりにして、この場で出た具体的な意見については市が今後実施する個別事業に落とし込んでいくのか、よりビジョンの内容を深掘りして加賀市らしいビジョンを創り上げていくのか、どのような方向性としていきたいのか伺いたい。

事務局回答：市長の考えとしては、「もっと住民が幸せな加賀市」というところが一番大きな思いとして出発点となっている。その実現に向けては、資料3に示した4つの視点を大事にしていくこととしている。特に、生活基盤の充実と魅力の磨き上げという部分を両輪としていきたいと考えているが、生活基盤の充実の部分については市民生活にも直結する話であるから、幅広く取組を進めていきたい。それを踏まえたうえで、どのような分野で加賀市の特色を出していくかを表したのが、地域の活力を育む、子どもや若者の人材育成、魅力の磨き上げという3点になるが、この内容も総花的ということであれば、重点テーマを減らして示すというのも一つの意見として受け止める。なお、このビジョンの中に記載のない分野だからと言って何も取組を行わないということではない。また、このままのビジョンのつくりでいくと、ビジョンの方向性を基に、それを複合的にかけ合わせて具体的なプロジェクトを練り上げ、今後予算の中で示していく事になる。

【田向委員】

- 今回出た意見をしっかり聞いて、具体的な計画に移すときに反映していただきたい。

【委員長】

- 市で作成するビジョンは一般の企業のものとは異なり、議会での意見や予算との関係もあると思うが、この委員会が出た意見を答申して終わりというだけでは貴重な時間が無駄になってしまう。そうならないようこの場の議論で出た意見は市の方でしっかりとまとめて今後の市政に反映してほしいし、市長もその内容を把握し、首長としての責任を果たしてほしい。

【山口委員】

- 資料5の「③地域資源の価値を高めます」について、先ほど出た北陸新幹線の関西圏とのアクセスの話が、テーマの概要に書かれていない。今回の委員会が出た意見がビジョンに反映されていくのか。そして、委員会での意見が今後どのように活かされていくのかというイメージを教えてください。

事務局回答：前回の委員会にて、市の財政状況についての資料を示した際にも少し説明をさせていただいたが、市としては、北陸新幹線の開業を、100年に1度のチャンスと位置づけ投資を行ってきた。このことを加味して、重点テーマの中で書かせてもらった。強みと弱みは表裏一体のものであるので、それを強みと捉えて進めるか、関西圏からのアクセスが減っているという弱みがあるとして課題として考えていくかという視点や線引きを設けるという方法も考えられる。ただ、テーマを出しすぎると方向性が幅広になり難しく見えるのではないかという意見があれば、内容を減らすというのも一つの手だと思うし、大事だと思うものの中でも内容を一つに絞るということはできると思う。このような意見などを、4つの視点の中でいただきたいと考えている。

3 その他

4 閉会

事務局からの事務連絡